



いせん

伊仙町議会だより

第32号

発行 伊仙町議会

〒891-8293

大島郡伊仙町伊仙1842

事務局 ☎ (0997) 86-3111

編集 議会広報編集委員会

印刷 (有)奄美新生社印刷



町民体育祭の1コマ
阿権の選手のみなさんおつかれ
さまでした。

目 次

平成22年度 決算報告	2～3
各会計歳入歳出決算審査特別委員会委員長報告	4
平成23年 伊仙町議会定例会 全議案／陳情・発議一覧	5
一般質問	6～8
議会構成／議会のうごき／TPP参加阻止	9
議会中継／編集後記	10

平成22年度 一般会計歳入歳出決算対前年比較

(歳入)

(単位：千円) (歳出)

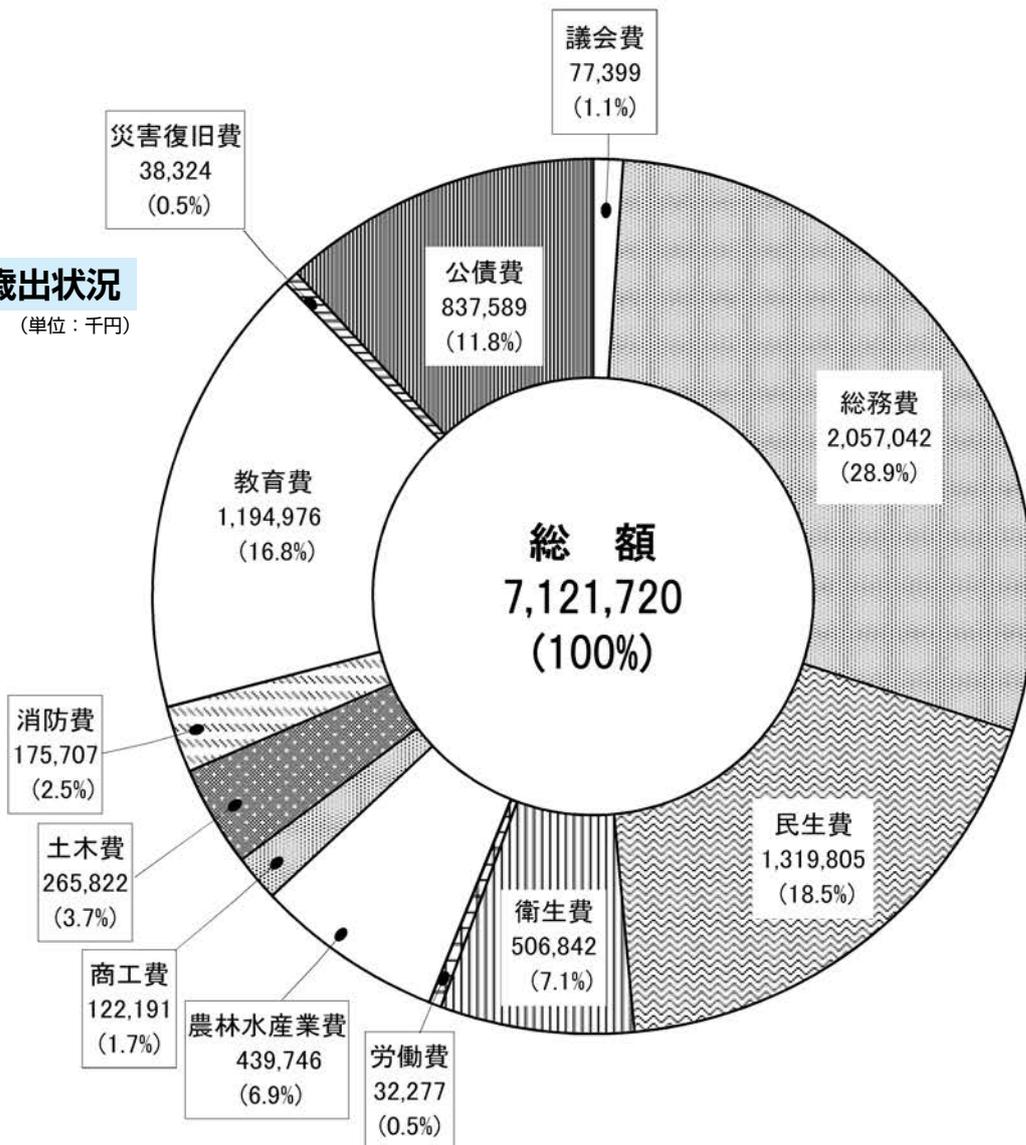
(単位：千円)

款	平成22年度決算額		平成21年度決算額		比較 (A)-(B)= (C)	伸率 (C)/(B) %	款	平成22年度決算額		平成21年度決算額		比較 (D)-(E)= (F)	伸率 (F)/(E) %
	(A)	%	(B)	%				(D)	%	(E)	%		
1 町 税	280,608	3.8	292,536	4.4	△ 11,928	△ 4.1	1 議 会 費	77,399	1.1	80,658	1.3	△ 3,259	△ 4.0
2 地方譲与税	83,082	1.1	84,633	1.3	△ 1,551	△ 1.8	2 総 務 費	2,057,042	28.9	868,880	13.5	1,188,162	136.7
3 利子割交付金	1,054	0.0	1,002	0.0	52	5.2	3 民 生 費	1,319,805	18.5	1,147,563	17.9	172,242	15.0
4 配当割交付金	139	0.0	158	0.0	△ 19	△ 12.0	4 衛 生 費	506,842	7.1	491,255	7.6	15,587	3.2
5 株式等譲渡金	152	0.0	60	0.0	92	153.3	5 労 働 費	32,277	0.5	14,362	0.2	17,915	124.7
6 地方消費税	49,221	0.7	49,306	0.7	△ 85	△ 0.2	6 農 林 水 産 業 費	493,746	6.9	895,582	13.9	△ 401,836	△ 44.9
7 自動車取得税	12,190	0.2	14,170	0.2	△ 1,980	△ 14.0	7 商 工 費	122,191	1.7	55,258	0.9	66,933	121.1
8 地方特例交付金	15,531	0.2	10,251	0.2	5,280	51.5	8 上 木 費	265,822	3.7	617,079	9.6	△ 351,257	△ 56.9
9 地方交付税	3,123,293	42.5	2,915,184	44.0	208,109	7.1	9 消 防 費	175,707	2.5	131,811	2.1	43,896	33.3
10 交通安全対策特別交付金	1,818	0.0	1,855	0.0	△ 37	△ 2.0	10 教 育 費	1,194,976	16.8	1,327,058	20.7	△ 132,082	△ 10.0
11 分租金及び賃料	58,138	0.8	52,503	0.8	5,635	10.7	11 災 害 復 旧 費	38,324	0.5	0	0.0	38,324	
12 使用料及び手数料	47,384	0.6	46,121	0.7	1,263	2.7	12 公 債 費	837,589	11.8	795,042	12.4	42,547	5.4
13 国庫支出金	2,308,952	31.4	1,370,718	20.7	938,234	68.4	13 諸 支 出 金						
14 県支出金	418,694	5.7	605,351	9.1	△ 186,657	△ 30.8	14 予 備 費						
15 財産収入	14,296	0.2	15,064	0.2	△ 768	△ 5.1	歳 出 合 計	7,121,720	100.0	6,424,548	100.0	697,172	10.9
16 寄附金	6,123	0.1	3,531	0.1	2,592	73.4							
17 繰入金	391	0.0	5,255	0.1	△ 4,864								
18 繰越金	108,163	1.5	19,609	0.3	88,554	451.6							
19 諸収入	98,282	1.3	70,689	1.1	27,593	39.0							
20 町債	720,215	9.8	1,071,262	16.2	△ 351,047	△ 32.8							
歳入合計	7,347,726	100.0	6,629,258	100.0	718,468	10.8							

平成22年度 一般会計決算報告

科目別歳出状況

(単位：千円)



総 額
7,121,720
(100%)

議会費
77,399
(1.1%)

災害復旧費
38,324
(0.5%)

公債費
837,589
(11.8%)

総務費
2,057,042
(28.9%)

教育費
1,194,976
(16.8%)

民生費
1,319,805
(18.5%)

消防費
175,707
(2.5%)

土木費
265,822
(3.7%)

衛生費
506,842
(7.1%)

商工費
122,191
(1.7%)

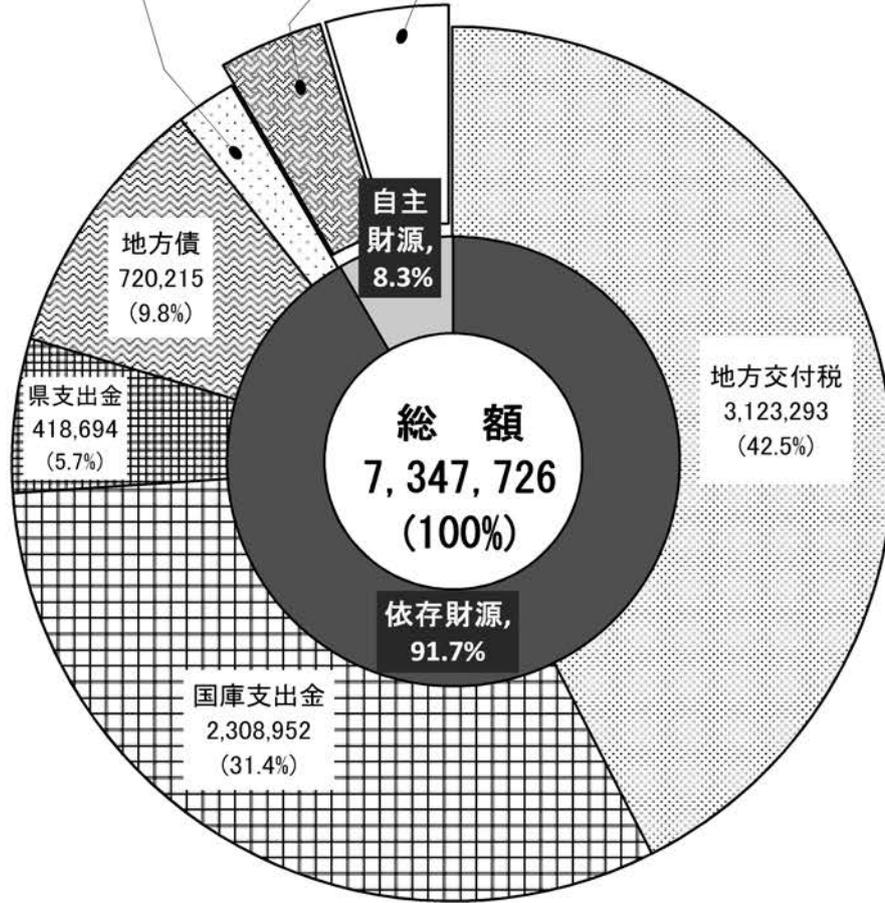
農林水産業費
493,746
(6.9%)

労働費
32,277
(0.5%)

《一般会計決算まとめ》

歳入歳出差引残高 226,006 (千円)
 翌年度繰越額 126,006 (千円)

地方譲与税	83,082(1.1%)	町税	280,608 (3.8%)	繰入金	391(-)
利子割交付金	1,054(-)			繰越金	108,163(1.5%)
配当割交付金	139(-)			諸収入	98,282(1.3%)
株式等所交付金	152(-)			分担金及び負担金	58,138(0.8%)
地方消費税交付金	49,221(0.7%)			使用料及び手数料	47,384(0.6%)
自動車取得税交付金	12,190(0.2%)			財産収入	14,296(0.2%)
地方特例交付金	15,531(0.2%)			寄付金	6,123(0.1%)
交通安全特別交付金	1,818(-)				



平成22年度 各特別会計歳入歳出決算額

(単位：千円)

会 計 別	予算現額	決 算 額		歳入歳出差引残高	執 行 率	
		収入済額	支出済額		歳 入	歳 出
国民健康保険	1,199,765	1,210,241	1,199,738	10,503	100.9	100.0
老人保健	87	85	85	0	98.2	98.2
介護保険	894,661	899,227	894,475	4,752	100.5	100.0
後期高齢者医療	152,495	152,812	152,477	335	100.2	100.0
ほーらい館	76,979	81,974	76,778	5,196	106.5	99.7
簡易水道	278,314	282,710	277,995	4,715	101.6	99.9
上水道	87,485	87,485	83,736	3,749	100.0	98.3
合 計	2,689,786	2,714,534	2,685,284	29,250	100.9	99.8

平成22年度 伊仙町一般会計歳入歳出 決算他7特別会計歳入歳出決算 審査特別委員会委員長報告

当決算審査特別委員会に付託されました、平成22年度伊仙町一般会計歳入歳出決算他7特別会計歳入歳出決算について、去る9月20日に決算審査特別委員会を開き、審査した結果についてご報告申し上げます。

まず、開会直後に執行部より決算書の内容について詳細説明を求め、それを受けて各委員よりあらゆる方向から質疑があり、財政難の中にあつて予算が有効かつ適正に運用されているか審議をいたしました。

一般会計においては、病虫害防除に対しての具体的な効果、不能欠損額、収入未済額、土地売却収入の中身等についての質疑がありました。

また、要望として

1. 成果説明書の中身について具体的な成果、今後の展望、課題等 建設的な成果説明書に来年度からは改めること。
2. 事業をする際は、早く計画的に執行すること。
3. 予算計上は、1年分を精査して編成すること。
4. 不用額があまりにも大きいので、今後は不用額を少なくしてその分を町民のために使うこと。
5. 畜産振興のため経済課を中心に三町の改良委員会とも連携して研修会等を実施すること。
6. ふるさと雇用再生特別基金事業の決算報告をすること。

以上の要望がありました。

続いて、ほーらい館については、民間委託、指定管理者制度に移行する考えがあるかとの質疑に対し、執行部からは近い将来民間委託したいとの答弁であった。

また、成果説明書は、数字の羅列のみではなく、具体的な説明を入れるようにとの提言があつた。採決の結果、

平成22年度伊仙町一般会計歳入歳出決算、

平成22年度伊仙町国民健康保険特別会計歳入歳出決算、

平成22年度伊仙町老人保健医療事業特別会計歳入歳出決算、

平成22年度伊仙町介護保険特別会計歳入歳出決算、

平成22年度伊仙町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算、

平成22年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計歳入歳出決算、

平成22年度伊仙町簡易水道特別会計歳入歳出決算、

平成22年度伊仙町上水道事業会計歳入歳出決算

については全会一致で認定することと決定しました。

以上で、委員長報告を終わります。

(特別委員長 杉並 廣規)

平成23年 第3回伊仙町議会定例会 全議案 (会期9 / 13～22)

番 号	議 案 名	採 決 結 果
報 告 第 3 号	平成22年度健全化判断比率	可 決
報 告 第 4 号	平成22年度資金不足比率	可 決
議案第33号	高齢者等肉用牛導入基金条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第34号	伊仙町肉用牛特別導入事業基金条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第35号	伊仙町税条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第36号	伊仙町重度心身障害者医療費助成条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第37号	平成23年度伊仙町一般会計補正予算(第3号)	原案可決
議案第38号	平成23年度伊仙町国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第39号	平成23年度伊仙町介護保険特別会計補正予算(第2号)	原案可決
議案第40号	平成23年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第41号	平成23年度伊仙町簡易水道特別会計補正予算(第2号)	原案可決
同 意 第 2 号	伊仙町教育委員の選任について	同 意
認 定 第 1 号	平成22年度伊仙町一般会計歳入歳出決算	認 定
認 定 第 2 号	平成22年度伊仙町国民健康保険特別会計歳入歳出決算	認 定
認 定 第 3 号	平成22年度伊仙町老人保健医療事業特別会計歳入歳出決算	認 定
認 定 第 4 号	平成22年度伊仙町介護保険特別会計歳入歳出決算	認 定
認 定 第 5 号	平成22年度伊仙町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算	認 定
認 定 第 6 号	平成22年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計歳入歳出決算	認 定
認 定 第 7 号	平成22年度伊仙町簡易水道特別会計歳入歳出決算	認 定
認 定 第 8 号	平成22年度伊仙町上水道事業会計歳入歳出決算	認 定

平成23年 第3回伊仙町議会定例会 陳情・発議一覧

番 号	件 名	採 決 結 果
陳 情 第 6 号	町道ハナサキ線の排水処理について	採 択
陳 情 第 7 号	川内原発増設計画の中止などを求める意見書の採択について	採 択
陳 情 第 8 号	陳情書	採 択
陳 情 第 9 号	TPP(環太平洋連携協定)交渉参加反対に関する陳情書	採 択
陳 情 第 10号	川内原発に関する陳情書	文 書 配 布
発 議 第 8 号	川内原発増設計画の中止などを求める意見書	原案可決
発 議 第 9 号	TPP(環太平洋連携協定)交渉参加反対に関する意見書	原案可決
発 議 第 10号	「離島振興法」の改正・延長を求める意見書	原案可決

一般質問



琉議員

問 防災について

東日本大震災の教訓より全国の各市町村の防災対策が大きく見直され、津波対策や防災マップ、防災訓練の再確認や合同訓練が行われていますが、伊仙町の防災マップでの避難所の面縄小学校の児童生徒ならびに教職員の避難経路はどうなっているのか。

答 面縄小学校は避難所に指定されていましたが、今回の災害を機に自主防災組織を立ち上げる中で避難所の指定を外しております。

避難経路につきましては、学校を出て古里集落から検福集落へ抜け、上面縄集落の方々の支援もいただきながら、避難所のコミュニティセンターか面縄中学

校への経路を考えております。又、琉議員のご指摘の通り、災害というのは想定範囲内を超える事は一つの教訓になり、可能な限り防災体制を整えなければなりません。地域の方々、学校関係者との検討を重ねて避難路を西側に、裏山への階段の設置や周辺河川の整備にも今後出てくる課題も検討しながら次に備えてまいります。

問 光ファイバー事業について

IP告知端末利用によって防災関係や町内情報がかかりやすくなったことについては、大きな成果だと思えますが、災害時の機能について、先日、雷雨でIP告知端末が被害を受け利用できませんと言った声があります。対応はどうなっているのか。

答 IP告知端末機につきましても、現在保険に加入しているの、もし落雷等の災害で故障が生じた場合

に、保険で対応する事になっております。又、停電の場合は、パソコンを含めてIP告知端末機も機能しませんので、災害時の連絡体系は、防災無線で二十四時間稼働しますのでこの防災無線の整備にも力を入れているところでございます。

問 財政について

各種税の徴収率向上対策についてはどの様に取り組んでいるのか、徴収対策室のその後の活動状況はどうなっているのか。

答 町長以下全職員が徴収に当たる全員体制で臨み、サービスマン制限条例の検討、テレフォンサービス等、色々な形で徴収に取り組み、集落担当制や財産調査、預金調査、差し押さえ処分の検討等の対策も進め、確実に徴収し滞納額を減らす取り組みを一生懸命行っています。徴収対策室につきましても、今後滞納対策に重きを置いて各課長と協議をし、平成24年度は

徴収対策室と滞納対策室を併設する方向で検討しております。

問 教育行政について

障がい児教育の養護学校分校を農業高校跡地に要望する取り組みについて、その後の状況はどの様になっているのか。又、農業高校跡地の今後の見通しはどうなっているのか。

答 地方分権が進んでいる中で、伊仙町議会が養護学校設置に積極的に取り組み、全郡議員大会で採択さ



永岡議員

問 鳥獣被害について

カラス、イノシシの被害状況の把握はできているのか。

答 平成22年度のイノシシの被害状況はサトウキビに

れたことは、歴史的にも大変画期的な政策であると思う。現状は県と交渉中で、鹿児島県議会においては、生徒数の確保等についてはまだ確立していない状況も含めて、継続審議中でありまして。今後の跡地利用につきましては、養護学校問題が具体的に進んできたことで、当初の計画から養護学校敷地を除いた部分を伊仙町に無償譲渡する案で県と交渉中であります。

が被害を受け、金額にして228万円程度、サツマイモが約10aで12万円程度です。カラス被害に関しては、パイナップル、ドラゴンフルーツ他に家畜飼料を食い荒らす被害が出ていて、この被害金額が40万円程度出ています。

問 被害対策は、どのようにやっているのか。

答 イノシシの対策としては一頭につき、1万円の報償費を出しています。JAあまみの方で一頭5千円の報償費を出すとということが決まっています。カラスに関しては、今年30羽分の報償費を組んで実施をしています。伊仙町では捕獲カゴを二基設置して、実施しています。伊仙町では8月23日に町長、副町長、猟友会他11名のメンバーで伊仙町鳥獣被害対策協議会を立ち上げて活動しているところでございます。

問 町営住宅計画について

来年度からの建設地域及び戸数について

答 西部地区を中心に、今後5年間で50戸の建設計画を立てています。現在東犬田布に亀戸団地に14戸建設中でございます。

来年度以降につきましては、木之香、糸木名2団地にそれぞれ6戸ずつ12戸の

住宅建設計画をしております。他の地区につきましても平成25年度以降、喜念、馬根、阿権、阿三等から要望が出ています。この要望地区につきましても、今後順次計画を進めていきたいと思っております。

問 現在町営住宅入居希望の待機者は、何人いるのか。

答 8月末現在で、40人の待機者がおります。そのうち10名につきましては、現在施行中の亀戸団地の入居を希望しています。残り30名につきましては、町内全域に広がっています。住宅改修につきましては建設課としても一生懸命取り組んでいきたいと考えているところでございます。

問 環境問題について

資源・ゴミのスクील缶、アルミ缶の処理はクリーンセンターでそれぞれ分別してプレス処理をしていると思うが、プレス処理後はど

のように処置しているのか。

答 アルミ缶とスクील缶のプレス後の処理ですが、島内の解体業者に引き取ってもらっています。

金額はアルミAが1kg当たり100円、アルミBが1kg50円、スクीलが1kg15円で引き取ってもらっています。処理能力が5時間で13tという状況であり、今のところ順調に稼働しているということですが。

問 クリーンセンターでこれだけの収益があれば、資源・ゴミ袋は無償にできないか、もしくは各集落、各種団体で自主財源作りを町全体で取り組めないか。

答 収集袋に関しましては、広域連合のほうでもそういう議論がございまして。広域連合のほうも自主財源が必要だということ、一時は収集袋の値段を下げようという時期もありましたけれども、現在のところは、そういった議論は

ない状況ですが、今各校区で子どもたち、婦人部の方々が自主的に集めて自主財源にしていこうということを考えてみた場合に、無料化ということも今後検討していかなければいけないと思っております。また、広域連合のほうで議論していきたいと思えます。

問 水土里サークル活動（農地水環境保全向上対策事業）について

今年度で事業は終了するが、来年度からの見通しはどうか。

答 この制度は、平成19年度から5年間の時限立法でありまして、今年度で終了する予定になっています。次年度以降については、県に問い合わせていますが、継続が終了するか、まだ目途が立っていない状況です。

水土里サークルは各集落が住民自治という形で、これはクリーン作戦とも連動して非常に評価される事業であります。ほぼ5年間限

定ということでございますけれども、土地改良事業の全国的な予算が削減されてきた中で、この水土里サークル活動はソフト事業として高く、要望が強くなっていますので、今後ともこの事業が厳しい財政状況の中でありますけれども国、県に強く継続できるように要望をしていきたいと考えております。

問 国、県が継続できない場合、町独自でこのような対策事業ができないか。

答 国、県がこの事業を継続しないということであれば、財政状況を見ながら考えていかなければなりません。この事業により集落のまとまり、団結そして環境問題への意識が高くなってきたこと、クリーン作戦との連携もうまくいったことなどを考えてみた場合は費用対効果を考え、有意義だと思います。

今後、さらに住民自治というものをみんなが求め

て、新しい村づくり、まちづくりをしていくのであれば検討をしていく価値は充分あると思います。



杉並議員

問 徴税等の滞納に対する行政サービスの制限措置等に関する条例の制定について

答 私どもも平成23年の4月1日からの実施を予定しておりましたがいろいろ検討を重ねた結果、実施に向けて幾つかの問題点を残しておりますので、これらの解決をどうするかということとを今、税務課と一緒に研究協議中であります。いざれ税の公平な負担、これを確保するという意味からもやはり必要ではないかと現段階ではとらえておりま

問 飼い猫の適正な飼養及び管理に関する条例の制定について

答 徳之島保健所において、三ヶ町と徳之島保健所、名瀬保健所、奄美市の環境省奄美自然保護官事務所の方々と徳之島ノイヌ、ノネコ対策検討会がありまして、奄美市他四町村が条例制定され、10月1日に施行することになり、三町もぜひ条例制定に向けて検討してもらいたいとの要望があり、三町で希少野生生物保護のための奄美市の条例を参考にして条例制定に向けて協議検討し、三町同時に進めていきたいと思っております。

問 議会基本条例の制定について

答 議会だけでなくこの自治基本条例ということで行政も含めた自治体全体を含めての基本条例という流れにもなっています。地方分権一括法が2000年に制定されてから地方自治体の権限が大きく増えてまいりました。同時に議員の意識改革等は質問する力、質問力の向上と同時に議会の政策立案能力というものが今まで以上に必要になってまいりました。そういったことを含めた議会基本条例は、私は絶対に必要ではないかと、これから議会基本条例なくしては自治体の発展ということはあり得ないという状況にまなっていると思います。今後とも議会の方々の今までの以上の勇気と奮起をお願い申し上げたいと思っております。



常議員

問 防災対策について
阿三へりポートの点検、管理状況、救急へりの訓練について

答 現在、環境整備、除草は伊仙町消防団鹿浦分団の方々に依頼しています。又、電気の点検等は役場の消防担当が行っています。自衛隊の年間計画に基づき発着陸訓練を行っています。又県防災へりが今月、実施しています。

問 入口の道路、阿三へりポート周辺の整備について

答 サークルH内の表示、陥没部分、う回路について今後検討して整備を進めていきます。

問 教育行政について

町内での特別支援学級は何人で何学級か、先生の配

置はどのようになっているのか。

答 伊仙小学校に三人、面縄小学校に一人、伊仙中学校に一人、面縄中学校に一人各学校に特別支援学級の担任そして町独自の支援員としてそれぞれの学校に配置しています。

問 大島養護学校の分校設置に向けて伊仙小学校、伊仙中学校での特別支援学級活性化を図ることはできないか。

答 専門性の高い教員を加配していき、先生が特別支援学級に向いて担任の相談を受けたり、指導を行う。児童の送迎等保護者との協議が必要であり、今後の検討課題です。



議会構成が変わりました。

新しく議会運営委員会委員長、総務文教厚生常任委員会委員長に杉並 廣規議員が、議会広報委員会委員長に琉 理人議員が互選されました。

議 長	常 隆之
副議長	伊藤 一弘

総務文教厚生常任委員会	
委 員 長	杉並 廣規
副 委 員 長	前 徹志
委 員	美島 盛秀
委 員	上木 勲
委 員	樺山 一
委 員	永田 誠
委 員	常 隆之

経済建設常任委員会	
委 員 長	清水 喜玖男
副 委 員 長	琉 理人
委 員	永岡 良一
委 員	明石 秀雄
委 員	佐藤 隆志
委 員	福留 達也
委 員	伊藤 一弘

伊仙町議会構成

議 会 運 営 委 員 会	委員長/杉並 廣規 副委員長/清水 喜玖男、前 徹志、琉 理人、伊藤一弘
徳之島地区消防組合議員	永岡良一、前 徹志、永田 誠
徳之島地区介護保険組合議員	琉 理人、樺山 一、佐藤 隆志
徳之島愛ランド広域連合組合議員	上木 勲、明石 秀雄、福留 達也
議 会 選 出 監 査 員	樺山 一
議 会 広 報 委 員 会	委員長/琉 理人 副委員長/清水 喜玖男、杉並 廣規、前 徹志、伊藤一弘

議会のうごき

平成23年9月

- 5日 平成23年第3回伊仙町議会定例会告示
- 9日 打越衆議院議員との意見交換会
(ほーらい館) 全員協議会、総務文教厚生
常任委員会、議会広報委員会
(議会委員会室)
- 12日 議会運営委員会 (議会委員会室)

- 13日 平成23年第3回伊仙町議会定例会開会
- 14日 徳之島障がい者支援センターいっぽ宿泊研
修開会式に全議員が参加
(旧徳之島農業高等学校校体育館)
- 16日 一般質問 (琉議員、永岡議員、杉並議員、
常議員)

- 18日 中学校体育祭
- 20日 伊仙町一般会計歳入歳出決算他7特別会
計歳入歳出決算審査特別委員会
- 21日 視察調査 (町内のイノシシ被害箇所の確
認等)

- 22日 平成23年第3回伊仙町議会定例会閉会
- 30日 関西徳州会伊仙町出身者との懇談会に議
員が出席 (天田布)

平成23年10月

- 1日 鹿浦・馬根小学校運動会
- 2日 他小学校運動会
- 7日 介護保険組合議会 (徳之島町)
- 9日 町民体育祭
- 12日 伊仙町農業生産50億プロジェクト会議

※ 掲載されている行事以外にも、各種協議会及び集落行事等にも出席しておりますが、予めご了承下さい。

TPP参加阻止・米軍基地徳之島移設断固反対総決起大会

11月13日(日)ほーらい館前広場において国会議員、県議会議員、農業関係者、関係機関約2,000人参加のもと、TPP参加阻止に向けて総決起大会が行われました。

TPPに参加した場合、農業だけでなく関連産業にも大きな影響が出ます。未来の徳之島、いや日本のためにも絶対にTPP参加を阻止しましょう。



打 越あかし衆議院議員との意見交換会

9月9日にはほーらい館において議員、執行部参加のもと、国政報告の後に活発な意見交換会が実施されました。

- ① 目手久闘牛場建設について
 - ② 日本の食料自給率が非常に低く、義務教育に「農業」という科目を導入できないか
 - ③ 障がい者と長寿者の農業への参画について
 - ④ 水道老朽管敷設替え工事について
- など他にもたくさんの意見が出されました。この意見に対していねいにお答えいただきました。

また、清水 喜玖男経済建設常任委員長より打越 あかし 衆議院議員に「農業農村整備事業・地籍調査事業について」要望書を提出しました。



徳 之島障がい者支援センターいっぽの宿泊研修に参加

いっぽの宿泊研修が9月14日～15日に旧徳之島農業高等学校体育館で実施され、開会式・昼食会に全議員で参加しました。会員の皆さんは、「疲れ」を忘れてほーらい館のジム、プール、夜のバーベキュー、カラオケ、風船バレー等を楽しんでいました。

閉会式では会員から「楽しかった」とのお礼の言葉をたくさんいただきました。中でも一番印象に残ったのは「一日も早く養護学校分校を造ってください」という言葉でした。

現在、我々伊仙町議会は分校設置に向けて取り組んでおり、より一層決意を強くしました。



議会中継が始まる

平成23年12月議会より議会中継を伊仙町ホームページ上で実施する予定です。「町民に身近な議会を目指しています」ぜひご覧ください。

徳 田毅衆議院議員へ要望書提出

離島医療サミット参加のため来島されていた徳田毅衆議院議員に「農業農村整備事業・地籍調査事業・イネヨトウ（メイチュウ）の防除、対策の推進について」琉経済建設常任副委員長より要望書を提出しました。



編集後記

国内は基より世界中で起きている自然災害。大自然の驚異にはどうすることも出来ません。しかし、防災対策は十分に徹底しておかなければなりません。災害の想定内、想定外と言う言葉もよく聞くようになりました。「備えあれば憂いなし」というように災害に対する認識や対策、訓練の重要性を再認識し、自然災害のみならず人的災害にも注意、関心を常日頃から持ち、行動できる体勢造りが肝要であります。

(文責 琉理人)

議会広報編集委員会

- 委員長 琉理人
- 副委員長 清水喜玖男
- 委員 杉並 廣規
- 委員 伊藤 一弘
- 委員 前 徹志